古文 品詞分解（動詞・助動詞）「方丈記 ～ゆく川の流れ～」問題

①ゆく河の流れは②絶えァずして、しかももとの水ィに③あらゥず。よどみに④浮ぶうたかたは、かつ⑤消えかつ⑥結びて、久しく⑦とどまりェたるためしなし。世中に⑧ある人とすみかと、又かくのォごとし。

たましきの都のうちに、棟を⑨並べ、甍を⑩争へカる、高き、卑しき、人の住まひは、世々を⑪経て⑫尽きせキぬ物なれど、これをまことかと⑬尋ぬれば、昔⑭ありクし家はまれなり。⑮あるいは去年⑯焼けて今年⑰作れケり。⑱あるいは大家⑲滅びて小家と⑳なる。㉑住む人もこれに同じ。所も㉒かはらコず、人も多かれど、いにしへ㉓見サし人は、二、三十人が中に、わづかにひとりふたりシなり。朝に㉔死に、夕に㉕生まるるならひ、ただ水の泡にぞ㉖似スたりセける。㉗知らッず、㉘生まれ㉙死ぬる人、いづかたより㉚来たりて、いづかたへか㉛去る。また㉜知らタず、仮の宿り、たがためにか心を㉝悩まし、何に㉞よりてか目を㉟喜ばチしむる。その主とすみかと、無常を㊱争ふさま、㊲いはば朝顔の露に異ならッず。あるいは露㊳落ちて花㊴残れテり。㊵残ると㊶いへども、朝日に㊷枯れトぬ。あるいは花㊸しぼみて露なほ㊹消えナず。㊺消えニずと㊻いへども、夕を㊼待つ事なし。

古文 品詞分解（動詞・助動詞）「方丈記 ～ゆく川の流れ～」解答

カ四㊥ ヤ下二㊦ 打消
①ゆく河の流れは②絶えァずして、しかももとの水ィに③あらゥず。よどみに④浮ぶうたかたは、
断定 ラ変㊦ 打消 バ四㊥
ヤ下二㊥ バ四㊥ ラ四㊥ 存続 ラ変㊥
かつ⑤消えかつ⑥結びて、久しく⑦とどまりェたるためしなし。世中に⑧ある人とすみかと、
比況
又かくのォごとし。

バ下二㊥ ハ四㊤ 存続
たましきの都のうちに、棟を⑨並べ、甍を⑩争へカる、高き、卑しき、人の住まひは、
ハ下二㊥ サ変㊦ 打消 ナ下二㊤ ラ変㊥ 過去
世々を⑪経て⑫尽きせキぬ物なれど、これをまことかと⑬尋ぬれば、昔⑭ありクし家はまれなり。
ラ変㊥ カ下二㊥ ラ四㊤ 存続 ラ変㊥ バ上二㊥ ラ四㊦ マ変㊥
⑮あるいは去年⑯焼けて今年⑰作れケり。⑱あるいは大家⑲滅びて小家と⑳なる。㉑住む人もこれに
ラ四㊦ 打消 マ上一㊥ 過去
同じ。所も㉒かはらコず、人も多かれど、いにしへ㉓見サし人は、二、三十人が中に、わづかに
断定 ナ変㊥ ラ下二㊥ ナ上一㊥ 存続 詠嘆
ひとりふたりシなり。朝に㉔死に、夕に㉕生まるるならひ、ただ水の泡にぞ㉖似スたりセける。
ラ四㊦ 打消 ラ下二㊥ ナ変㊥ ラ四㊥ ラ四㊥
㉗知らッず、㉘生まれ㉙死ぬる人、いづかたより㉚来たりて、いづかたへか㉛去る。また
ラ四㊦ 打消 サ四㊥ ラ四㊥ バ四㊦ 使役
㉜知らタず、仮の宿り、たがためにか心を㉝悩まし、何に㉞よりてか目を㉟喜ばチしむる。
ハ四㊥ ハ四㊦ 打消
その主とすみかと、無常を㊱争ふさま、㊲いはば朝顔の露に異ならッず。
タ上二㊥ ラ四㊤ 存続 ラ四㊦ ハ四㊤ ラ下二㊥ 完了
あるいは露㊳落ちて花㊴残れテり。㊵残ると㊶いへども、朝日に㊷枯れトぬ。あるいは花㊸しぼみて
ヤ下二㊦ 打消 ヤ下二㊦ 打消 ハ四㊤ タ四㊥ マ四㊥
露なほ㊹消えナず。㊺消えニずと㊻いへども、夕を㊼待つ事なし。